

事業群評価調書(令和3年度実施)

| | | | | |
|-------|--|----------------|----------------------------------|----------------|
| 基本戦略名 | 1-3 長崎県の未来を創るこども、郷土を愛する人を育てる | 事業群主管所属・課(室)長名 | 事業群①:教育庁 義務教育課 事業群②:教育庁 高校教育課 | 加藤 盛彦 狩野 博臣 |
| 施策名 | 5 グローバル化社会を生き抜く力を持った人材づくり | 事業群関係課(室) | | |
| 事業群名 | ① 小・中・高を通じた外国語教育の充実 ② 高等学校における特色ある国際理解・外国語教育の推進 | 令和2年度事業費(千円) | ※下記「2. 令和2年度取組実績」の事業費(R2実績)の合計額 | 0 190,751 |

1. 計画等概要

| | | | | | | | | | | |
|--|--|--|---------------|-------|-------|-------|-------|----------|-----------------|---|
| <p>(長崎県総合計画チェンジ&チャレンジ2025 本文)</p> <p>①外国語教育の早期化、教科化、高度化への対応や、英語の「読む、書く、聞く、話す」の4つの技能をバランスよく育むとともに、小・中学校及び高等学校が連携し、発達段階に応じて、コミュニケーションを図る資質・能力を育成します。</p> <p>②社会や経済のグローバル化が急速に進展する中、高等学校において、外国語指導助手(ALT)等の積極的な活用や国際交流の機会を設け、外国語によるコミュニケーション能力を高めるとともに、生徒の国際理解を促進し、グローバルな視野を育みます。</p> | | <p>(取組項目)</p> <p>i) 我が国の言語や伝統・文化への理解促進(事業群①) ii) 小学校からの英語教育の充実や県独自の教材の活用(事業群①) iii) 小・中・高を通じた外国語教育の計画的な推進(事業群①) iv) 小学校における英語教育の早期化・教科化に伴う教員の指導力向上(事業群①) v) 海外研修や留学生等との交流を推進(事業群②) vi) 外国語指導助手を活用した高校生英会話テスト等の実践的なコミュニケーション活動を実施(事業群②) vii) 高い語学力とリーダーシップを備えグローバルな視野を持った人材育成(事業群②)</p> | | | | | | | | |
| 事業群 | 指標 | 基準年 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | 最終目標(年度) | (進捗状況の分析) | |
| | ①英検3級以上相当の英語力を有すると思われる中学3年生の割合 | 目標値① | / | 50% | 55% | 60% | 60% | 60% | 60% (R7) | ①平成26年度から5年間で「英検3級以上相当の英語力を有すると思われる中学3年生の割合」は10.7ポイント上昇しており、これまでの県内全中学1年生を対象としたイングリッシュ・キャンプや中学校英語教員を対象としたTOEIC IPテストの受験といった取組が、一定、中学生の英語力向上につながっていると考えられる。 しかしながら、小学校においては令和2年度から、中学校においては令和3年度から新学習指導要領が全面実施となるなど、更なる英語教育の充実が求められるところであることから、児童生徒に英語体験や英語を活用する場を提供するほか、中学校教員の英語指導力の充実を図る研修会を通して、改善に努める。 ②定時制課程(夜間部)と通信制課程を除くすべての県立高校で外国語指導助手を活用した授業を行い、「外国語学習の意欲」や「外国への興味・関心」が高まったとの評価を生徒から得ている。 今後も、外国語指導助手の配置により、生徒の外国語によるコミュニケーション能力と外国語学習に対するモチベーションの向上を図る。 |
| | | 実績値② | 41.6% (R元) | / | / | / | / | / | 進捗状況 | |
| | | 達成率②/① | / | / | / | / | / | / | — | |
| | 指標 | 基準年 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | 最終目標(年度) | | |
| | ②外国語指導助手が参加する授業により外国語学習の意欲や外国への興味・関心が高まった生徒の割合 | 目標値① | / | 92%以上 | 92%以上 | 92%以上 | 92%以上 | 92%以上 | 92%以上維持 (R7) | |
| 実績値② | | 92%(H27~R元平均) | / | / | / | / | / | 進捗状況 | | |
| 達成率②/① | | / | / | / | / | / | / | — | | |

2. 令和2年度取組実績(令和3年度新規・補正事業は参考記載)

| 取組項目 | 中核事業 | 事業番号 | 事務事業名 | 事業費(単位:千円) | | | 事業概要 令和2年度事業の実施状況 (令和3年度新規・補正事業は事業内容) | 指標(上段:活動指標、下段:成果指標) | | | 令和2年度事業の成果等 | |
|-------------|------------------------|----------------------|-------------------------------|------------|-------------|-------------|--|--|------|------|-------------|--|
| | | | | R元実績 | うち 一般財源 | 人件費 (参考) | | 主な指標 | R元目標 | R元実績 | | 達成率 |
| | | | | R2実績 | | | | | R2目標 | R2実績 | | |
| | | | | R3計画 | 事業実施の根拠法令条項 | | | | R3目標 | | | |
| 事業期間 | 法令による 事業実施の 義務付け | 県の裁量 の余地が ない事業 | 他の評価 対象事業 (公共、研究等) | 事業対象 | | | | | | | | |
| 所管課(室)名 | | | | | | | | | | | | |
| 取組項目 iii | ○ | 1 | 「世界へのゲートウェイ・Nagasaki」英語教育推進事業 | / | / | / | 小中連携及び中高連携の鍵を握る中学校英語教員に焦点を当て、中学校教員の英語指導力の充実に資する研修や、児童生徒に英語体験や英語を活用する場を提供する取組等を実施する。 | 【活動指標】 | / | / | / | - |
| | | | (R3新規)R3-4 | 1,978 | 1,978 | 7,853 | | 【成果指標】 | 12 | / | / | |
| | | | 義務教育課 | - | - | - | | 英検3級程度以上の 中学3年生の割合 (%) | 50 | / | / | |
| 取組項目 vii | ○ | 2 | これからの社会を生き抜く力を持ったグローバル人材育成事業 | 1,226 | 1,226 | 6,259 | 海外での語学研修とグローバル企業への訪問研修、各学校や生徒の国際的素養を身に付けるための取組の推進を図ろうとしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で研修は中止となった。 | 【活動指標】 | 35 | - | - | ●事業の成果 ・代替研修を通じて外国語学習と異文化への興味・関心が高まった。 ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、海外での語学研修は中止となった。併せて、研修参加生徒への事後アンケートも実施していない。 |
| | | | R2-4 | 15,245 | 4,495 | 6,282 | | 【成果指標】 | 35 | / | / | |
| | | | 高校教育課 | - | - | - | | グローバルな視野や課題発見・解決能力が身についたと思う生徒の割合(%) | 80 | - | - | |
| 取組項目 vi | ○ | 3 | 外国語指導助手招致費 | 225,642 | 225,642 | 3,182 | 定時制課程(夜間部)と通信制課程を除く、すべての県立高校にALTを配置した。 | 【活動指標】 | 100 | 100 | 100% | ●事業の成果 ・外国語指導助手が参加する授業の実施によって、生徒の外国語学習の意欲や外国への興味・関心を高めることができた。 |
| | | | | 189,525 | 189,525 | 3,130 | | 県立学校(定・通信制を除く)において、外国語指導助手が参加する授業実施率(%) | 100 | 100 | 100% | |
| | | | | 239,255 | 239,255 | 3,141 | | 【成果指標】 | 100 | / | / | |
| | | | S62- | - | - | - | | 外国語指導助手が参加する授業により外国語学習の意欲や外国への興味・関心が高まった生徒の割合(%) | 90 | 93.6 | 104% | |
| | | | 高校教育課 | - | - | - | | 90 | 94.1 | 104% | | |

3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

| | | |
|----------------------------|---|--|
| i 我が国の言語や伝統・文化への理解促進(事業群①) | <p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>英語の語彙や文法指導に終始する授業が、現在においても散見される。英語の学習を通して、日本語との違いに気づき、日本語や我が国の文化についての理解を深められるように授業改善が求められる。</p> | <p>●課題解決に向けた方向性</p> <p>スキルアップ研修会において、学習指導要領の内容を再度確認し、授業改善を図る。さらに、「イングリッシュ・フォーラム」において、言語の背景にある文化に関する内容を盛り込み、広くWeb配信することで県内教員の指導力の向上を図る。</p> |
|----------------------------|---|--|

| | | | |
|-----|---|--|---|
| ii | 小学校からの英語教育の充実や県独自の教材の活用(事業群①) | <p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>小学校においては、着実に授業改善が進んでいるものの、小学校教員に対しての支援は引き続き必要である。</p> | <p>●課題解決に向けた方向性</p> <p>各学校の好事例を授業モデルとして積極的に紹介する。県独自の教材である英単語・表現学習サイト「RISE UP ENGLISH」については、小学校に対しても、一人一台端末を活用するなどGIGAスクール構想推進に関係付けながら、その活用を促す。</p> |
| iii | 小・中・高を通した外国語教育の計画的な推進(事業群①) | <p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>平成30年度に「小・中・高を通した英語教育推進事業」を3市で実施したが、他市町への広がりという点で課題が残った。県全体として、小・中・高で一貫した指導連携体制を構築する必要がある。</p> | <p>●課題解決に向けた方向性</p> <p>「大学と連携した英語指導力向上事業」において、小中連携モデル地区を指定し、近隣の高校と相互授業参観等を行い、先進的な授業や取組をWeb配信することにより、県内に広く周知する。また、県英語教育推進協議会で全市町及び高校との連携強化に努める。</p> |
| iv | 小学校における英語教育の早期化・教科化に伴う教員の指導力向上(事業群①) | <p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>小学校英語専科教員に対する研修機会の確保と、学校における効果的な運用が求められる。</p> | <p>●課題解決に向けた方向性</p> <p>小学校英語専科教員研修を実施し、所属校、兼務校でOJTが推進されるように、その役割を自覚させるとともに、指導力の向上を図る。さらに、本研修会を通して、英語専科教員同士で適宜、情報交換ができる関係づくりを図る。</p> |
| v | 海外研修や留学生等との交流を推進(事業群②) | <p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>英語・中国語・韓国語を専門的に学ぶ生徒への海外での語学研修については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止となった。中国語を専門的に学習している高校の生徒に対しては、オンラインでの代替研修を実施した。今後も語学研修に参加を希望する生徒と外国人との交流の機会を確保する必要がある。</p> | <p>●課題解決に向けた方向性</p> <p>オンラインでの代替研修等を通じて、語学研修及び外国人との交流機会の確保に努める。</p> |
| vi | 外国語指導助手を活用した高校生英会話テスト等の実践的なコミュニケーション活動を実施(事業群②) | <p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>全生徒に対し年1回以上の英会話力テストを実施した。また、令和2年度にはグローバル・パイオニア育成事業の分析結果を活用して改訂版を作成した。今後は新学習指導要領の実施に伴い、これまで以上に「聞く」「読む」「話す」「書く」の英語4技能の育成が求められる中で、生徒の、英語による発信力をさらに高めていく必要がある。</p> | <p>●課題解決に向けた方向性</p> <p>高校生の、英語によるコミュニケーション能力の育成に向けて英会話力テストを実施する。実施にあたっては、英語教師あるいは外国語指導助手による個別面接形式で行う。また、英語教員に対する研修において、ICT機器の活用を含め、コミュニケーション活動の充実に向けた内容を実施する。</p> |
| vii | 高い語学力とリーダーシップを備えグローバルな視野を持った人材育成(事業群②) | <p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>WWLコンソーシアム構築支援事業の研究指定校に対し、グローバルな課題をテーマにした探究的な学習の支援を行った。今後もWWLコンソーシアム構築支援事業を通じて、グローバル社会で活躍できる人材を育成し、成果の普及を進める必要がある。</p> | <p>●課題解決に向けた方向性</p> <p>語学研修及び探究的な学習の内容をさらに深める取組を支援するとともに、その成果を広く他校に発信し、アドバンス・ラーニング・ネットワークの構築をより強固で広範なものとするよう努める。</p> |

4. 令和3年度見直し内容及び令和4年度実施に向けた方向性

| 取組項目 | 中核事業 | 事業番号 | 事務事業名 | 令和3年度事業の実施にあたり見直した内容 | 令和4年度事業の実施に向けた方向性 | | |
|----------|------|------|--|----------------------|-------------------|--|-------|
| | | | 事業期間 | | 事業構築の視点 | 見直しの方向 | 見直し区分 |
| | | | 所管課(室)名 | | | | |
| 取組項目 iii | ○ | 1 | 「世界へのゲートウェイ・Nagasaki」英語教育推進事業 (R3新規)R3-4 義務教育課 | R3新規 | ① | 令和3年度に実施する全中学校英語教員対象の「ICTを活用した中学校英語教員指導力向上研修パッケージ」に関して、その成果と課題をまとめ、令和4年度に生かしていく。 | 改善 |

| | | | | | | | |
|-------------|---|---|------------------------------|---|---|--|------|
| 取組項目 vii | ○ | 2 | これからの社会を生き抜く力を持ったグローバル人材育成事業 | 高校生のシンガポール英語研修が終了となり、英語4技能育成事業として、ICT活用研修会、指導力向上プロジェクト、小・中・高連携強化のための研修会を設定した。 | ② | 中核となる英語教員を中心に、所属校においてICTの活用も含めたテーマに基づく実践研究を行い、横断的な展開を図る。英語4技能育成事業の取組内容及び成果について、引き続き県全体への普及を図る。 | 改善 |
| | | | R2-4 | | | | |
| | | | 高校教育課 | | | | |
| 取組項目 vi | ○ | 3 | 外国語指導助手招致費 | — | — | 生徒のコミュニケーション能力等の向上を図るため、今後も事業を継続していく必要がある。 | 現状維持 |
| | | | S62- | | | | |
| | | | 高校教育課 | | | | |

注:「2. 令和2年度取組実績」に記載している事業のうち、令和2年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

【事業構築の視点】

- ① 視点① 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができているか。
- ② 視点② 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。
- ③ 視点③ 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。
- ④ 視点④ 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。
- ⑤ 視点⑤ 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑥ 視点⑥ 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑦ 視点⑦ 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。
- ⑧ 視点⑧ 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改正要望)する必要はないか。
- ⑨ 視点⑨ 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。
- ⑩ その他の視点